

令和 5 年 4 月 25 日現在

機関番号：24301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02457

研究課題名(和文)「授業の映像化」の論理と構造の解析—映像教育学構築のための試論—

研究課題名(英文) The Analysis of the Logic and Structure of Lesson Visualization : A Trial Theory for the Construction of Video Pedagogy

研究代表者

三木 博 (Miki, Hiroshi)

京都市立芸術大学・美術学部 / 美術研究科・教授

研究者番号：10229669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：「授業の映像化」の論理と構造の解析という根本課題を巡り、その論点及び構造連関を解明する。教育映画に表れる「映像のなかの教育 映像としての教育」という経糸と緯糸の接点を辿ることにより解明した。注視したのは、教育記録映画の映像表象に纏わる独自の論理 「映像の論理」と「教育の論理」とのあいだで交叉する独自の連関である。「授業の映像化」における固有の構造を解明するために、映像素材の具体的な撮影技法の解析を手掛かりとして実証的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

羽仁進の教室映画と林竹二の授業映画。教育映画として対蹠的な映像表現であるが、画面の「強度・深度・訴求力」において正に比肩しうる両者の作品群を、その制作経過を緻密に比較することによって、「授業の映像(映画)化とは何か」という根本命題の解明に導いた。

本研究は「教育映画」における固有の教育学的文脈の解析という課題に初めて取り組み、その切り口として撮影技法/撮影構想に着眼した先駆的試みである。教育哲学・映像教育学を深化させるだけでなく研究の視界を大胆に広げ、新たな地平を独創的に拓いた成果である。

研究成果の概要(英文)：This paper is an attempt to elucidate the fundamental issue of analyzing the logic and structure of the "visualization of the classroom" and to elucidate its issues and structural linkages. The study traced the contact point between the warp and weft threads of "education in images and education as images" in educational films. What I focused on was the unique logic of the visual representation of educational documentary films - the unique linkage that intersects between the "logic of images" and the "logic of education. In order to elucidate the unique structure of the "visualization of the classroom," I empirically verified it by analyzing the specific filming techniques of the video materials.

研究分野：教育学

キーワード：教育映画 授業 映像化 羽仁進 林竹二

1. 研究開始当初の背景

「授業の映像(映画)化」の解析を課題とする本研究の端緒として、戦後記録映画の隆盛期である1950年代から70年代にかけて誕生した卓越した教育映画作品を基調研究の対象として取り上げた。戦後文化映画の高揚期を経て、高度成長期に重なるこの時期の実写的な教育映画ほど、教育映像としての創造力が横溢している時代は他にない。

ただし教育映画史上、画期をなす傑出した映画作品でありながら、その大きな名声の陰で、実際の撮影構想にまで深く踏み込んだ、内在的・生成的な視点からの映像解析はこれまで十分にはなされてこなかった。

2. 研究の目的

本研究のねらいは「授業の映像(映画)化とは何か」という根本命題に収斂する。本研究では、終戦後間もなく再出発した伝統的な「教育映画」の系譜に連なる映画作品群から映像を抽出して、その教育表象の意味を深く掘り下げた。映画表現に深く塗り込まれている教育表象(映像のなかの教育)、教育言説の文脈生成のなかで映像が孕んでいる課題(映像としての教育)に着眼し、その固有の教育学的文脈の解析という課題を初めて俎上に載せた。

3. 研究の方法

本研究では映像表象という固有のテキストである映画記録を撮影技法(手法)の視点に踏み込んで解読した。映像の読解(映像[カメラ]で考える)とは、既存の教育学上の文脈や教育言説・教育思想に準拠・依拠するかたちで、映像表象を編集的にその平仄に合わせてなぞる表層的な読解ではない。教育言説が内包する統語法・物語生成の文法と、視聴覚イメージとの微妙ではあるが重大な差異・軋轢・齟齬にあえて注視する複層・批判的な読み方となる。衝突し合い、批評し合い、抵抗し合う映像断片や文脈相互の摩擦が、画面に緊張感・訴求力・迫真性をもたらす。微細な差異(ズレ)や摩擦をもたらす撮影の技法に着眼することにより、豊饒な映像表現の奥行きまで見届けた。

4. 研究成果

終戦後間もない1950年代、教育映画の分野で主導的な立場にあった初期岩波映画製作所製作の作品群から、記録映画作家・羽仁進(1928~)の初期映画作品の意義を闡明化した。「教室三部作」と呼ばれる初期の作品群から、特に『教室の子供たち』(1954年)及び『絵を描く子どもたち』(1956年)の二篇の作品の映像解析を俎上に載せた。これら二作品は教育映画史上、画期をなす傑出した映画作品でありながら、その大きな名声の陰で、実際の撮影構想にまで深く踏み込んだ、内在的・生成的な視点からの映像解析はこれまで十分にはなされてこなかった。本研究では卓越した撮影手法を可能とした撮影構想の詳細で膨大な記録資料を精査することにより、遙か昔に誕生した作品が、今日でも強い訴求力を持ち得ていること、繰り返し観る度に、その都度予期せぬ新たな意味が発見されること、作品が実用的に消費され尽くされずに、意味が再生産されることなど、作品の独自性・創造性の来たるところを初めて詳らかにした。

羽仁進の教室映画の解析に次いで、対蹠的映像ながら授業映画の本質を剔抉するための映画作品群として、孤高の教育哲学者・林竹二(1906~85)がその晩年の生涯を賭けた訪問授業・授業巡礼の一環として映像に残された貴重な授業実践の克明な記録映画(制作:グループ現代)に着目した。映画制作者「グループ現代」は、結成当初から市民社会的な課題群を先鋭的に映像化してきた映画作家集団である。本研究で取り上げる映画作品として、1970年代中盤以降、本土返

還間もない沖縄を巡る社会情勢が浮動するなか、全八回にも及ぶ林の沖縄訪問のうち、那覇市立久茂地小学校で実施された授業の映像記録『記録・授業 人間について』(三部作)の映画素材に焦点を絞ることで、初めて撮影構想・撮影技法の分析からその傑出した映像表現がもたらす授業映画としての意味を綿密に解析した。この映像解析の試みにより、林竹二の実践授業が深く孕んでいるダイナミズムを初めて複合的視点から蘇らせた。

本研究は通史的モノグラフではなく、教育(教室/授業)映画作品を対象として、映像生成の技法に迫ろうとする映像解析論の初めての試みである。研究前半では、羽仁監督の1950年代における画期的な二篇の教育映画作品に焦点を絞り、卓越する映像制作の詳細に踏み込んだ映像解析に集中した。研究後半では、映像作家集団「グループ現代」による1970年代沖縄・那覇での林竹二の訪問授業の記録映画作品の映像解析に専念した。従来の「林竹二研究」では、その教育思想・授業論の言説上の分析のみが考察の対象とされており、映画素材・撮影技法の視点から踏み込んだ詳細な解析はこれまで当然ながら存在しなかった。研究の先駆的性格上、先行文献には依拠できない未知の困難な状況に直面した。その克服のため埋もれ忘却されていた撮影関連資料(撮影スタッフが覚え書きとして残した撮影構想案など断片資料)の慎重な資料調査・掘り起こし作業と、映像解析による撮影技法の考察成果とを綿密に突き合わせることにより、初めて林竹二の授業を貫いている生動性のあり方を捉えることが可能になった。

羽仁進の教室映画と林竹二の授業映画。教育映画として対蹠的な映像表現であるが、画面の「強度・深度・訴求力」において正に比肩しうる両者の作品群を、その制作経過を緻密に比較することによって、「授業の映像(映画)化とは何か」という根本命題の解明に導いた。

本研究は「教育映画」における固有の教育学的文脈の解析という課題に初めて取り組み、その切り口として撮影技法/撮影構想に着眼した先駆的試みである。教育哲学・映像教育学を深化させるだけでなく研究の視界を大胆に広げ、新たな地平を独創的に拓いた成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三木 博	4. 巻 67号
2. 論文標題 「授業の映像化」の論理と構造の解析（ ）－林竹二の授業の映画化をめぐって－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木 博	4. 巻 66号
2. 論文標題 「授業の映像化」の論理と構造の解析－羽仁進の教育映画・再考－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木 博	4. 巻 65号
2. 論文標題 「映像のなかの教育 / 映像としての教育 羽仁進『教室の子供たち』と林竹二『記録・授業 人間について』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------